

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 19年 10月 2日

## 【評価実施概要】

【評価実施機関】

|       |                                  |       |            |
|-------|----------------------------------|-------|------------|
| 事業所番号 | 2874300367                       |       |            |
| 法人名   | 社会福祉法人　みすず福祉会                    |       |            |
| 事業所名  | グループホーム　すまいる                     |       |            |
| 所在地   | 赤穂市鷗和９５－３５<br>(電　話) 0791-43-8988 |       |            |
| 評価機関名 | 社会福祉法人　兵庫県社会福祉協議会                |       |            |
| 所在地   | 神戸市中央区坂口通２－１－８                   |       |            |
| 訪問調査日 | 平成19年7月23日                       | 評価確定日 | 平成19年10月4日 |

【情報提供票より】(平成19年7月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

|       |               |                          |      |
|-------|---------------|--------------------------|------|
| 開設年月日 | 平成 17年 10月 1日 |                          |      |
| ユニット数 | 2 ユニット        | 利用定員数計                   | 18 人 |
| 職員数   | 16 人          | 常勤 5人, 非常勤 11人, 常勤換算 14人 |      |

## (2) 建物概要

|      |                |
|------|----------------|
| 建物構造 | 鉄骨 造り          |
|      | 2 階建ての 1～2 階部分 |

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |                  |                |                 |
|---------------------|------------------|----------------|-----------------|
| 家賃(平均月額)            | 51,000 円         | その他の経費(月額)     | 18,000+光熱水費実費 円 |
| 敷 金                 | 有 ( 円) (無)       |                |                 |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | 有 ( 円) (無)       | 有りの場合<br>償却の有無 | 有 / 無           |
| 食材料費                | 朝食 350 円         | 昼食 600 円       |                 |
|                     | 夕食 650 円         | おやつ 100 円      |                 |
|                     | または1日当たり 1,700 円 |                |                 |

## (4) 利用者の概要 ( 7月 1日現在 )

|       |         |         |         |
|-------|---------|---------|---------|
| 利用者人数 | 18 名    | 男性 7 名  | 女性 11 名 |
| 要介護1  | 5 名     | 要介護2    | 2 名     |
| 要介護3  | 7 名     | 要介護4    | 3 名     |
| 要介護5  | 1 名     | 要支援2    | 0 名     |
| 年齢    | 平均 80 歳 | 最低 62 歳 | 最高 93 歳 |

## (5) 協力医療機関

|         |            |
|---------|------------|
| 協力医療機関名 | てんわかかりつけ医院 |
|---------|------------|

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

赤穂市内で1ヵ所のグループホームで、2ユニットで運営されている。理事長の開設している医院と隣接しており医療面での緊急対応が充分に行える環境にある。裏庭には畑があり、苗選びは主に利用者の要望を聞き、四季折々の野菜や花等を栽培して新鮮な野菜を収穫して食材の一部としている。また、クラブ活動の種類も多く、エステやメイク、ネイルケアなどは入居者がいきいきと生活する一助となっている。職員は利用者の生活習慣や得意なことが可能な限り生かされるよう支援している。今後は職員の育成について計画的に研修受講できる体制を検討し、他のホームとも交流してサービスの向上に生かすことが期待される。

## 【重点項目への取組状況】

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)<br>玄関等の施設について職員全員で話し合いを持ち、昼間は施設しないように改善をしている。出入口で死角となるカーテンや椅子の位置を工夫しながら見守りを中心にし、帰宅願望の強い利用者には職員が付き添って一度外に出てから無理じいせず自然ににホームに帰るように話し<br>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)<br>自己評価を職員全員で取り組むとともに、昨年の評価をいかせるように話し合いを行っている。要改善項目について工夫と試行を行なうとともに質の確保に向けた話し合いが行われている。 |
| 重点項目② | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6)<br>行政代表・地域代表・家族代表・職員代表を交えて2ヶ月に1回開催できる様に準備をしている。4月から管理者が変わり以前には開催していなかったが、6月に第1回の会合を持ち、8月に2回目を開催した。第1回目は参加者の紹介が主で質問・要望や協議等はなかったが、2回目からはホームの各報告を行い積極的な意見交換の場としている。                                                                                   |
| 重点項目③ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7, 8)<br>家族の意見や苦情は現在のところ出てはいないが、出ていないことが良いとの判断ではなく、家族が訪問した時には話しやすい雰囲気づくりに努め日頃かんじていることを話してもらえよう働きかけている。家族会の組織化は行われていないが、運営推進会議の中でも積極的に話をしてもらえようようにしていく予定である。                                                                                                   |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)<br>自治会・老人会は地域の規定により入会ができないが、行事があるごとに自治会長の働きかけもあり、盆踊りや小学校の廃品回収の手伝いにも参加をしており、できるだけ自治会長との連携を行い地域との交流に努めている。                                                                                                                                                             |

## 2. 第 三 者 評 価 報 告 書

| 第<br>三<br>者                  | 自<br>己 | 項 目                                                                           | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                   | ○印<br>(取り組みを期<br>待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                              |
|------------------------------|--------|-------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|----------------------------------------------------------------|
| <b>1. 理念に基づく運営</b>           |        |                                                                               |                                                                                                                   |                          |                                                                |
| <b>1. 理念と共有</b>              |        |                                                                               |                                                                                                                   |                          |                                                                |
| 1                            | 1      | ○地域密着型サービスとしての理念<br><br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている    | 事業所独自の理念は作成されているが、地域密着型のサービスの役割を反映したものでは無く従来の理念を活用している。                                                           | ○                        | 地域密着型サービスとなったことで、あらためてその役割を目指した理念を職員間でも話し合い、具体的につくりあげることが望まれる。 |
| 2                            | 2      | ○理念の共有と日々の取り組み<br><br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                       | 従来のホームの理念については、新任職員へ渡されれる業務マニュアルに記載し、実践の中で理解していけるようにしている。また各職員がつけている名札の裏にも理念を記載し、確認できるようにしている。                    | ○                        | 地域密着型サービスの役割を反映した理念を、管理者と職員が共有できるように日々の取り組みに生かすことが望まれる。        |
| <b>2. 地域との支えあい</b>           |        |                                                                               |                                                                                                                   |                          |                                                                |
| 3                            | 5      | ○地域とのつきあい<br><br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 自治会・老人会は地域の規定により入会はできないが、行事があるごとに自治会長の働きかけもあり、盆踊りや小学校の廃品回収の手伝いにも参加をしており、できるだけ自治会長との連携を行い地域との交流に努めている。             |                          |                                                                |
| <b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b> |        |                                                                               |                                                                                                                   |                          |                                                                |
| 4                            | 7      | ○評価の意義の理解と活用<br><br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる  | 自己評価を職員全員で取り組み、職員間の視点の違いがわかった。昨年の評価結果もいかにせるように話し合いを行っている。昨年の要改善項目について玄関の施錠を外すなど、工夫と試行を行なうとともに質の確保に向けた話し合いが行われている。 |                          |                                                                |

| 第三者 | 自己 | 項 目                                                                                                      | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                                                     | ○印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                        |
|-----|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|----------------------------------------------------------|
| 5   | 8  | ○運営推進会議を活かした取り組み<br><br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている              | 行政代表・地域代表・家族代表・職員代表を交えて2ヶ月に1回開催できる様に準備をしている。4月から管理者が変わり以前には開催していなかったが、6月に第1回の会合を持ち、8月に2回目を開催した。第1回目は参加者の紹介が主で質問・要望や協議等はなかったが、2回目ではホームの行事・クラブ・事故報告を行い積極的な意見交換の場となった。 |                      |                                                          |
| 6   | 9  | ○市町との連携<br><br>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる                                  | 市に提出する定期報告書類は郵送では無く、直接市の担当者に持って行き、できるだけ市の担当者や管理職の方と話す機会を持っている。                                                                                                      |                      |                                                          |
| 7   | 14 | ○家族等への報告<br><br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている                              | 毎月1回は各利用者宅に会計報告を送っている。その時々ニュースや広報誌を同封して送るようにしている。                                                                                                                   |                      |                                                          |
| 8   | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映<br><br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                                | 家族が訪問した際はざっくばらんに話をしてもらえよう雰囲気づくりに努め、日ごろ感じている事柄を聞かせてもらうように働きかけている。運営推進会議でも話がしやすいような運営を心がける予定である。                                                                      |                      |                                                          |
| 9   | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮<br><br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | かつて職員の離職が一時あり、利用者に対して混乱を招く要因になっていた。平成19年4月から管理者等職員の体制も変わり、あいさつなど基本的なコミュニケーションの徹底から関係作りを行ない、その後の職員の交代はなく、現在の利用者の表情は明るく落ち着いている。                                       | ○                    | 今後、職員の交代がある場合には引継ぎの方法や、個別に働きかけ関係を構築する方策を体系化していくことが期待される。 |

| 第三者                              | 自己 | 項 目                                                                                                    | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                           | ○印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                                                     |
|----------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>5. 人材の育成と支援</b>               |    |                                                                                                        |                                                                                                           |                      |                                                                                       |
| 10                               | 19 | ○職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている                | 職員の育成計画等は作成されておらず、研修を受ける機会も少ない。                                                                           | ○                    | 職員の研修のニーズを把握し、外部研修の情報を収集しながら、職員の経験や能力など段階に応じた育成について計画的に取り組むことが望まれる。                   |
| 11                               | 20 | ○同業者との交流を通じた向上<br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている      | 赤穂市内には事業所数が少なく、同業者と交流する機会が持たれていない。他事業所との交流を行う機会もないので勉強会を実施することも難しい状況である。                                  | ○                    | 市内の事業所だけに限定することなく、県内での事業所や、本部（大阪）の情報網も利用しネットワーク作りを行って、勉強会等で情報交換を行い質の向上を目指して行くことが望まれる。 |
| <b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>     |    |                                                                                                        |                                                                                                           |                      |                                                                                       |
| <b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b> |    |                                                                                                        |                                                                                                           |                      |                                                                                       |
| 12                               | 26 | ○馴染みながらのサービス利用<br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 家族と一緒に見学に来てもらい慣れてから利用を初めてもらう場合が多い。職員が利用者宅にもうかがい、コミュニケーションを充分に取り顔見知りになってから利用してもらうケースもある。空き室があれば体験入居も可能である。 |                      |                                                                                       |
| <b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b> |    |                                                                                                        |                                                                                                           |                      |                                                                                       |
| 13                               | 27 | ○利用者と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている                    | 利用者は人生の先輩であり職員は常に先輩から教えて頂くという姿勢で接することが多い。食事作りや畑仕事では教えてもらうことが多く、職員もたいへん頼りにしている。                            |                      |                                                                                       |

| 第三者                                  | 自己 | 項 目                                                                                                      | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                     | ○印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                   |
|--------------------------------------|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|----------------------|-----------------------------------------------------|
| <b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |    |                                                                                                          |                                                                     |                      |                                                     |
| <b>1. 一人ひとりの把握</b>                   |    |                                                                                                          |                                                                     |                      |                                                     |
| 14                                   | 33 | ○思いや意向の把握<br><br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している                                         | 日常の会話の中で本人の希望を聞き、実現に向けての話し合いを職員間で行っている。                             |                      |                                                     |
| <b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>   |    |                                                                                                          |                                                                     |                      |                                                     |
| 15                                   | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br><br>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している    | 介護計画の作成には全職員が関わりケア会議の中で話し合いが行われ、それぞれの利用者に適した介護計画をケアマネジャーとともに作成している。 |                      |                                                     |
| 16                                   | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し<br><br>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 1ヶ月に1度は見直しを行ない、また状況に変化があればその都度内容を変更している。                            |                      |                                                     |
| <b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>             |    |                                                                                                          |                                                                     |                      |                                                     |
| 17                                   | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br><br>利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている                                     | 事業所としては通院の送迎は家族と相談のうえで行っているが。その他の事業等は実施している状況にはない。                  | ○                    | 通院の送迎以外にも今後は事業所として、できることから積極的に自主サービスを行っていくことが期待される。 |

| 第三者                              | 自己 | 項 目                                                                                              | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                 | ○印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|-----------------------------------|
| <b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>  |    |                                                                                                  |                                                                                                                 |                      |                                   |
| 18                               | 43 | ○かかりつけ医の受診支援<br><br>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している               | 理事等が経営する隣接の医院をかかりつけの病院にしている利用者や、入居前から他にかかりつけ医がいる方には、必要な時に受診できるよう職員が送迎等支援している。隣接の医院からは24時間体制で医師や看護師に連絡を取ることができる。 |                      |                                   |
| 19                               | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br><br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | ホームでターミナルケアを行うことができることは家族にも知らせており、方針も事前の家族との話し合いで決めている。                                                         |                      |                                   |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |    |                                                                                                  |                                                                                                                 |                      |                                   |
| <b>1. その人らしい暮らしの支援</b>           |    |                                                                                                  |                                                                                                                 |                      |                                   |
| <b>(1) 一人ひとりの尊重</b>              |    |                                                                                                  |                                                                                                                 |                      |                                   |
| 20                               | 50 | ○プライバシーの確保の徹底<br><br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                           | プライバシーに関しては職員間でも注意しており、言葉かけにも配慮をしている。書類は事務所の鍵のかかる戸棚に保管をしている。                                                    |                      |                                   |
| 21                               | 52 | ○日々のその人らしい暮らし<br><br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している             | 1日の過ごし方は特にルールを決めておらず、起床・就寝や食事、入浴の時間など利用者それぞれのペースを尊重し、合わせている。                                                    |                      |                                   |

| 第三者                                  | 自己 | 項 目                                                                             | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                                                                 | ○印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                            |
|--------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|--------------------------------------------------------------|
| <b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b> |    |                                                                                 |                                                                                                                                                                                 |                      |                                                              |
| 22                                   | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている    | 3食ともホームで食事を作っている。利用者と共同で食事作りを行っており、ダシのとり方など職員が利用者に教えてもらうことの方が多い。準備と後片付けは利用者が率先して行っている。                                                                                          |                      |                                                              |
| 23                                   | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援<br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している   | 特に入浴をする曜日や時間は決めておらず、利用者の入りたい意向を尊重して入浴できるようにしている。入浴記録はパソコンに記録し、入らない利用者や入浴嫌いな利用者には清拭等を行っている。                                                                                      |                      |                                                              |
| <b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b> |    |                                                                                 |                                                                                                                                                                                 |                      |                                                              |
| 24                                   | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 裏庭に畑があり、利用者の希望を聞きながら季節に応じた苗を購入し育て、収穫して食材にしている。また、利用者の意向や興味に配慮しながらサロン（クラブ活動）で大人の塗り絵や習字、布のぞうりづくりや、指導経験のある職員が美顔術、ネイルケアを行っている。週に2回、魚の行商に来てもらっており漁師だった方が選別したり、魚をおろしたり、皆で干物を作ったりしている。 |                      |                                                              |
| 25                                   | 61 | ○日常的な外出支援<br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                   | ホームの周辺で川沿いに散歩できたり、10分程度歩けば海辺に出るので利用者は皆で連れ立って散歩に出て行けるようにしているが、車イス利用者等介助が必要な方については、なかなか外出できるような支援はできていない。                                                                         | ○                    | 介助の必要な利用者も日常的に外出の機会が作れるよう、職員体制や、地域の協力を得られるよう働きかけるなどの検討が望まれる。 |
| <b>(4) 安心と安全を支える支援</b>               |    |                                                                                 |                                                                                                                                                                                 |                      |                                                              |
| 26                                   | 66 | ○鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる          | 職員全員で話し合いを持ち、出入り口で死角となるカーテンや椅子の位置を工夫しながら見守りを中心に行い、夜間以外は鍵をかけないようにしている。                                                                                                           |                      |                                                              |

| 第三者                               | 自己 | 項 目                                                                                                       | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                 | ○印<br>(取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|-----------------------------------|
| 27                                | 71 | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている                                 | 夜を想定した災害訓練も実施しており、車イスの利用者の対応について等消防署員のアドバイスを具体的に聞き積極的に取り入れている。訓練の時には地域の方が様子をみにきてくれている。                          |                      |                                   |
| <b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b> |    |                                                                                                           |                                                                                                                 |                      |                                   |
| 28                                | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている                                   | 栄養摂取については毎食毎には計算していないが、市販の調理本を参考に献立をしており、1,400カロリー程度になるように献立を検討し作っている。水分にも注意をしており、摂取量はその都度パソコンで記録し、個人ごとに管理している。 |                      |                                   |
| <b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>    |    |                                                                                                           |                                                                                                                 |                      |                                   |
| <b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>            |    |                                                                                                           |                                                                                                                 |                      |                                   |
| 29                                | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 生活するうえで利用者に違和感が無いように、衝立の位置や椅子・テーブルの配置を検討し居心地の良い空間作りを模索している。                                                     |                      |                                   |
| 30                                | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている                     | 使い慣れたものを持ち込んでもらえるよう働きかけており、仏壇を持ち込まれている利用者や、好みのものを居室へ自由に持ち込めるようにしている。                                            |                      |                                   |

※  は、重点項目。